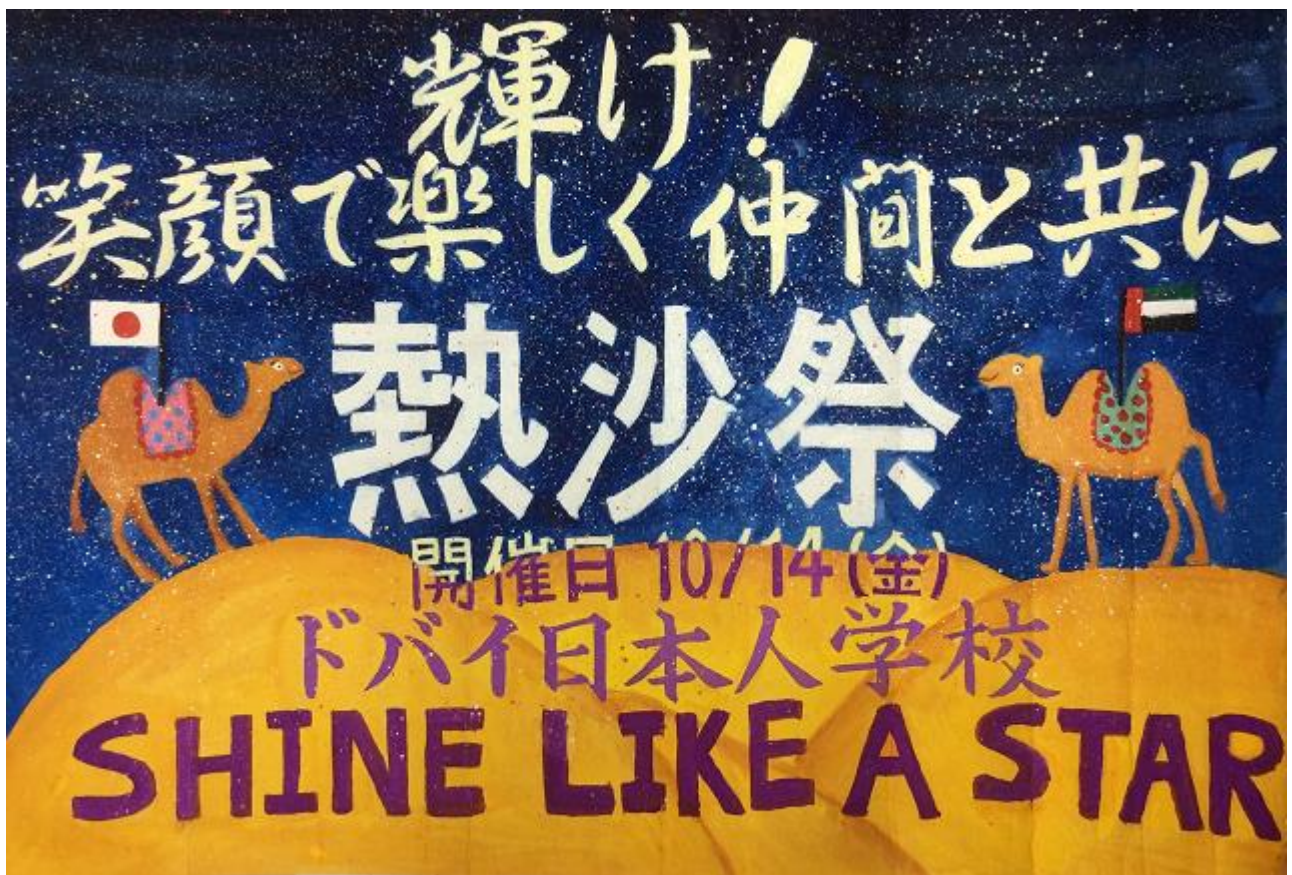


平成 28 年度（2016 年度）

ドバイ日本人学校 熱沙祭



G1,2 「うらしまたろう」



G3,4 「宝は どこだ！」



G5,6 「ねずみ小僧」



中学部 「合唱祭がなくなる日」

児童生徒の感想

G1, 2「うらしまたろう」

わたしは大きなこえではっきりせりふを
いえました。むらびとをしたひとたちが、
大きなあくしゅんをやっていました。
すごかったです。(G1 女子)

ぼくのせりふのなかで、さいしょのせり
ふがいちばんよかったとおもいます。大き
なこえではっきりいえました。げきのあい
だのみんなのしゅうちゅうりょくが、すご
いなあとおもいました。(G1 男子)



わたしは、ちゃんと大きい声でやりまし
た。だから、みんなちゃんと聞こえたと思
います。りゅうぐうじょうのみんなはアクシ
ョンをつけていたからよかったです。(G2 女
子)

ぼくのよかったところは、目ひょうどおり
体いくかんのおくの方までとどくくらい、
大きな声で話したことです。もう一つは、エ
ビカニクスを思いっきりおどったことです。
(G2 男子)



G3, 4 「宝は どこだ！」

私の熱沙祭のめあては、「見ている人にわかりやすいえんぎをする」でした。練習の時は、セリフに気持ちが入ってなく、目線も下をむいていました。けれども、本番では元気な声で上を向いて、はっきり言うことができました。私は練習をしたかいがあったなと思いました。
(G3 女子)



ぼくにとっては、はじめての熱沙祭でした。ぼくのめあては「自分のセリフをゆっくり言う」でした。それは、ぼくには言葉を速く話すくせがあるからです。そして、今回の一番さい後のセリフは、とても長いものでした。しかし、本番では長いセリフでもゆっくり言うことができたのでよかったです。また来年もがんばりたいと思います。(G3 男子)



わたしは、「みんなで協力し合うこと」というめあてを達成することができたと思います。なぜなら、ぶたいからおりてきた友達が「まちがえちゃった」といっても、みんなが「大じょうぶだよ」などと言って、はげましていたからです。熱沙祭のときだけではなく

て、ふだんでもはげまし合うことができるようにしたいです。そして何かに取り組むときも、協力して成功させたいと思います。(G4 女子)

ぼくは、熱沙祭をふり返って二つ思ったことがあります。一つ目は、身ぶり手ぶりで。本番はかん客がたくさんいて、身ぶり手ぶりが小さくなってしまいました。二つ目はダンスです。ぼくは、自分の出番が終わると、きんちょう感がなくなってしまうので、あまりよく出きませんでした。でもこの熱沙祭を通して、色々なことが分かりました。(G4 男子)



G5, 6 「ねずみ小僧」

僕がこの熱沙祭で感じたこと、それは絆です。音楽発表会でも運動会でも、やはり絆は大事です。5年生、6年生の心が一つになったのも、熱沙祭が大成功できたのも、みんなの絆があったからだと思います。最初は、台本を読むだけの練習でした。だが、そこから絆がどんどん上がっていきました、本番前日には100%の絆でした。本番では、左手に「絆」と書き、どんな時でも絆を忘れませんでした。5年生、6年生の内から一人だけでも休んでしまえば、絆も消えるし、熱沙祭も大成功しなかったかもしれません。だから、全員がいたからこそ、絆ができ、熱沙祭が大成功したと思っています。（G6 男子）



ぼくは、今年の熱沙祭で昨年より、よくなった事があります。それは劇を楽しめたことです。ぼくは今まで劇は人前に、出るからいやだな、と思っていました。でも、今回は劇の練習を楽しめて、さらに熱沙祭練習がまだかなと少し思えるほどにもなりました。熱沙祭でも緊張せずにゆっくり台詞を言えました。そして劇が終わると今年はよかったなと思えました。やはりこう思えるのは劇が楽しかったからだと思います。（G6 男子）

みんなでお互いにアドバイスをしたりして自分たちでつくる熱沙祭になったと思います。そして、全員が全力で出来たと思います。また、他の人の事も「もっとこうした方がいいよ」などのアドバイスを積極的にすることができたので良かったです。また、G5、G6の絆や自分からするというのを日常生活や行事に生かしたいです。（G5 女子）

熱沙祭をふり返って、G6とG5の絆も深くなったし、自分でも大きな声を出せたので良かったです。熱沙祭本番では、熱沙祭練習をして、一番大切だったことは演じることではなくて、友達に自分の考えを伝えることや、G6とG5の絆を深めることだと分かりました。熱沙祭で学んだことを、修学旅行や運動会、日常生活でも生かしていきたいと思います。（G5 女子）



中学部「合唱祭がなくなる日」

熱沙祭をふり返って、私が一番強く感じたことは、「楽しかった」でした。実行委員長を中心に進めていった私たちの物語は、練習の時から一人ひとりが役に入り、集中していました。また、実行委員長がみんなを引っ張ってくれただけでなく、それ以上に一人ひとりが意見を出し合っについていったからこそ成功だと思いました。ドバイで行う最後の熱沙祭は、とても思い出に残りました。(G7女子)



中学部19名と少ない中、みんなで協力して作り上げた劇は、最高のものとなりました。最初はうまくいかないことが多く、不安もありました。しかし、G8が引っ張ってくれ、それにしっかりついていくG7、適切なアドバイスをくれるG9と、本当に中学部全体が一つとなり頑張りました。限られた練習時間の中で、一人ひとりが全力で、一生懸命演じ、互いに意見を出し合い、よりよい劇をつくることができました。少人数だからこそできたものでもあったと思います。今年の熱沙祭はとてもいい思い出となりました。(G7女子)

僕は初めて熱沙祭実行委員長という大きな役割をもった。今年と去年の方法と違い、16名全員が同じ舞台上で演技をするということだったので、上手く指示が出せるか不安だった。短い期間の練習だったが、演技の完成度を上げ、中学部初のダンスも取り入れる



ことができた。本番は館内を湧かせられ、楽しく演技をすることができたと思う。過去4年間の中では、今年が一番良い演技ができ、成功できたと思います。(G8男子)



今回の熱沙祭では、私たちは裏方をしました。音響・背景・オープニングムービー・エンドロールなど、3人では手に余る作業の量で、想像以上に大変でした。活動期間も例年よりも少し少なかったです。しかし演技をしたG7,8はどの人も演技力が高く、人数の少なさを感じさせない圧巻の発表となりました。G9も自分の役割をしっかりと全うすることができました。中学部19人と先生方3人の全員が力を合わせ、最高の発表にすることができたと思います。(G9女子)